

業務の新聞

第35号 平成30年 12月21日

変革2027

「変革2027」が社内外に明らかになって以降、多くの職種で様々な施策が矢継ぎ早に展開されています。

その多くに、「AI」「IOT」「モニタリング」「ビッグデータ」などを活用した最新かつ最先端の技術が盛り込まれています。

電気の職場で、設備の職場で、運車の職場などで大きな“変革”が文字通り進められています。私たちの日々の業務や何より大切な安全も大きく“変革”が求められています。

「乗務員基地再編」で示されている“新たな乗務員基地”は、明るいワンフロア、コミュニケーションに最適な設備配置、新素材使用な寝具などなど「使わせる側」には魅力的な内容でしょう。しかし「使う側」にとっては???の連続です。

この間の取り組みでもなかなか改善できないでいる職場でのコミュニケーションの質の向上は、“変革”の中でその存在は、今まで以上に求められると考えます。

無関心を装っていたのでは、『後のまつり』になってしまいます。職場からシッカリとキッチリと建設的な意見具申し、より良い職場を創るためにもうひと頑張りしていきましょう。

職場が主役の会社を創るために！

2/24 2019春闘集会

2019年2月24日に、本部は2019春闘集会を開催します！

仲間たち一人ひとりの『声』を労働組合のひとつの『要求』に創りあげ、その実現に向けてなかまたちの力を集め示す場になります。

最大結集で行きましょう!!!

新年に向けて

最先端の技術を鉄道事業に導入し、生産性の更なる向上とお客様のニーズに添えていく「変革2027」のスタートから2年目に入ります。

皆さんの職場では“どのような、具体的な変化がありましたか？”

昭和のアタマでは、単語ひとつにもついていけないような感じで”戸惑い”や”不安”が先行してしまいます。

“つくられた流れ”に流されるだけでなく、職場を基本に『感じ、考え、学ぶ』を新たな年のキーワードに、私たちに出来る取組みを進めます。

大きな施策が進められていく中で、施策を担う『社員』『現場』は、企画・計画と“現実”の狭間で揺れ動き、『社員』『現場』の声は、なかなか上手く“上には”届きません。

東京オリンピックの開催もあつという間にやってきます。

東京地本は、組合員や家族が欲している“モノ・コト”を労働組合として実現することに努力して行きます。

思いつくままに

エルダー社員制度に添じる職場の先輩（他労組組合員）が、職場管理者から「第1希望には行けない、他に希望はないのか」と話されると悩んでいます。『どこならいけるのか？教えてほしい』という先輩の声にも職場管理者の芳しい反応はなかったそうです。

職場での丁寧な対応やセカンドキャリアの在り方、モチベーションの維持など、この間も支社とは論議をしましたが、まだまだ“不十分さ”を補うまでには至っていません。

労働組合として引き続き改善を求め、取組みを進めます。